

# 2022 中2以下保護者会

～本日のお話のコンテンツ～

- ① 2022共通テストの衝撃
- ② 保護者の「入試イメージ」をアップデート
- ③ 入試と勉強の関係もアップデート

進学塾寺子屋本楽寺

# 共通テストの衝撃で大混乱

一気に難化した2022共通テスト！ 数ⅠA:37.96点、数ⅡB:43.06点の数学ショック！

## ■ 2020年度センター試験と2021・2022年度共通テストとの比較

\*選択問題あり

科目	共通テスト 試験時間	ページ数(実質問題ページ数)				設問数(実質解答数)				平均得点率					
		2020年度 センター試 験	第1回 試行調査	第2回 試行調査	2021年度 共通テスト	2022年度 共通テスト	2020年度 センター試 験	第1回 試行調査	第2回 試行調査	2021年度 共通テスト	2022年度 共通テスト	2020年度 センター試 験	第2回 試行調査	2021年度 共通テスト	2022年度 共通テスト
国語	80分	41P	47P	46P	39P	44P	35問	30問	37問	38問	36問	59.66%	45.40%	58.75%	55.13%
数学Ⅰ・数学A	70分	18P(*)	32P(*)	25P(*)	26P(*)	21P(*)	38~39問	39~41問	36~40問	44~48問	41~44問	51.88%	30.12%	57.68%	37.96%
数学Ⅱ・数学B	60分	14P(*)	22P(*)	24P(*)	18P(*)	23P(*)	51~52問	35~38問	45問	53~57問	49~51問	49.03%	36.06%	59.93%	43.06%
世界史B	60分	24P	41P	31P	30P	28P	36問	36問	34問	34問	34問	62.97%	59.60%	63.49%	65.83%
日本史B	60分	32P	36P	30P	31P	31P	36問	31問	34問	32問	32問	65.45%	54.57%	64.26%	52.81%
地理B	60分	34P	40P	34P	34P	34P	35問	30問	32問	32問	31問	66.35%	61.46%	60.06%	58.99%
現代社会	60分	30P	30P	44P	35P	35P	36問	23問	31問	30問	30問	57.30%	51.63%	58.40%	60.84%
物理	60分	24P(*)	22P	25P	24P	24P	20問	21問	23問	24問	22問	60.68%	37.47%	62.36%	60.72%
化学	60分	31P(*)	25P	26P	23P	24P	30問	25問	31問	28問	29問	54.79%	49.68%	57.59%	47.63%
生物	60分	38P(*)	34P	30P	31P	28P	32~33問	28問	27問	27問	28問	57.56%	35.52%	72.64%	48.81%
地学	60分	32P(*)	33P	30P	30P	29P	30問	28問	29問	29問	30問	39.51%	42.02%	46.65%	52.72%
物理基礎	2科目で 60分	13P	なし	14P	15P	17P	13問	なし	14問	16問	12問	66.58%	58.26%	75.10%	60.80%
化学基礎		12P	なし	14P	12P	10P	15問	なし	13問	15問	15問	56.40%	50.99%	49.30%	55.46%
生物基礎		16P	なし	14P	20P	18P	18問	なし	19問	16問	17問	64.20%	51.02%	58.34%	47.80%
地学基礎		18P	なし	14P	15P	17P	15問	なし	13問	15問	15問	54.06%	57.21%	67.04%	70.94%
英語(リーディング)	80分	26P	30P	29P	32P	32P	48問	34問	37問	39問	39問	58.15%	51.25%	58.80%	61.80%
英語(リスニング)	30分	10P	(B)23P	20P	20P	20P	25問	(B)30問	30問	32問	32問	57.56%	59.10%	56.16%	59.45%

ページ数は冊子中の白紙を除く。設問数は配点が割り当てられた数をカウント。2021年度共通テストは本試験(1回目)を掲載。平均得点率は得点調整後の値。

多くの国公立大学の合否のキメテとなる共通テストの難化、力ギは数学と英語！

# 共通テストの方針＝高校入試の方針

共通テストはセンター試験と異なることを再確認！



## 共通テストの作問方針を再確認する！

それぞれの作問方針が反映されている教科の記事に、対応するアルファベットを入れています。

- A 問題文で示した流れに沿って解答するだけではなく、**問題解決のプロセスを判断・選択**しながら解答する。
- B **複数のテキストや資料**を提示し、必要な情報を組み合わせ思考・判断させる。
- C **分野の異なる複数の文章**の深い内容を比較検討させる。
- D 学んだ内容を**日常生活**と結びつけて考えさせる。
- E **正解が一つに限られない問題**にする。（複数解が選択肢に表記されるパターン）
- F 正解を選択肢の中から選ばせるのではなく**必要な数値や記号等をマーク**させる。

「思考力・判断力・（表現力）」の重点化のため、認知的負荷の高い問題に！  
共通テストの作問方針は、高校入試問題にも色濃く反映している！

# 共通テスト→高校入試 数学編

## ■ 数学 方針 A D E F

### 【数学Ⅰ・数学A】

昨年に比べて導入部分の文章や誘導部分の分量が減ったものの、多くの問題が「誘導式」となり、より思考力・判断力が求められる出題形式に。日常生活を素材とした問題の切り口、単元をまたぐ融合問題、極めて面倒な計算処理なども加わって、大きく平均点がダウン。今後の難易度の変動に注意が必要です。

### 【数学Ⅱ・数学B】

昨年のシンプルな作りに対して、会話や導入部分の文章が増え、「数学Ⅰ・数学A」に寄せた作りに。大問4の数列では、いわゆる旅人算系の状況設定を長い問題文を通して読み解く力が問われ、多くの受験者は戸惑った模様。さらに、個別試験で出題されてもおかしくないレベルの問題も目立ち、全体的に難易度アップした印象です。

公式を暗記して、ひたすら問題を解く

過去問を解きまくる

取れる問題をしっかりと。難問は捨てる

うっかりミスは悪



難問＝ を深める、 重視

「 」ではない

# 共通テスト→高校入試 英語編

## ■ 英語 方針 B D

### 【リーディング】

2022年度共通テストは、試行調査時代の問題から大きく変更はなく、昨年に引き続き、生活に即した実用的な英語（メール、広告、説明書など）を中心とした速読即解力が問われる作り。問題文自体は、決して難しいものではありません。

英語の総語数は約6,000語で、1分あたり75語（考える時間も含む）という凄まじいスピードで読み解くこととなり、「時間との闘い」と言えるでしょう。しかし、入試でこのような英語力が求められるのは共通テストのみ。個別試験では、逆に英文解釈や、英作文等の表現力に特化した英語力が求められます。このようなことから、英語学習の負荷が以前にも増して高まっていると言えるのです。

### 【リスニング】

昨年と同様の構成で大きな変化はありません。1回読みと2回読みの混在、ナチュラルな英語の聞き取り等、普段からの対策は不可欠です。

単語を繰り返し書いて練習

文法問題を徹底反復

ワーク・問題集中心の勉強

英検は過去問と予習で克服

和訳ができるように後ろから訳す



英単語と発音のルールに沿って

・ のあとに文法 → →

多読の代わりになるのは

英検は必要だが、過去問は 用

訳すくせをつける

# 共通テスト→高校入試 国語編

## ■ 国語 方針 B C D

変化のキーワードは「複数テキストの関連付け」。現代文では、説明的文章、文学的文章の両方で、メモやノートで思考過程を整理する形式の問題が、昨年に引き続き出題されました。一方、注目されていた実用的文章（公文書、契約書、図版等）は、2022年度共通テストでも出題なし。

センター試験、共通テストに特有の文学的文章の読解では、選択肢の読解に手こずるような難度の高いものもあり、平均点は平年並みとなりました。

出題形式は、古文・漢文も含め、全体的には、ほぼ固まってきた印象があります。

## 補足

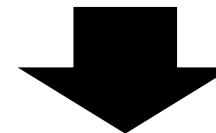
今までのように、抽象度の高いテーマより、比較的読みやすいテーマだけれども、細部まで読み取らないと正解できないようになってきています。

国語には読書が大事

傍線部や空欄前後をよく読めばいい

ちゃんと読め

詩・短歌俳句・文法は出ないから無視



基本は

文章を する力

語彙や漢字、 の知識（英理社も）

読解力が無い子の特徴です

# 共通テスト→高校入試 理科編

## 理科 方針 A D E F

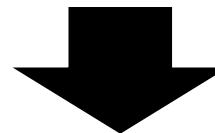
科目全体を通して、知識の活用力や思考力をより試される内容となり、前年に比べて8科目中5科目の平均点がダウン。センター試験時代も含めて、「化学」「生物」「生物基礎」の3科目は過去最低の平均点に（表参照）。しかし、いずれも平均点は50点弱なので、数学とは異なり、次年度以降大きな調整が図られるとは限りません。

「物理」では仮説を検証する見慣れない問題や、文章から論理的に考察する問題を出題。他科目でも受験生にとって初見と思われる資料や実験が出題されています。

生物・地学・化学は覚えるだけ

理系は国語が不得意

過去問解きまくれば大丈夫



概念重視は同じ、  
30年前の レベル、  
日常生活への活用・ 型

長文読解+論理的思考力

見たこと無い 検証

# 共通テスト→高校入試 社会編

## ■ 社会 方針 B D E

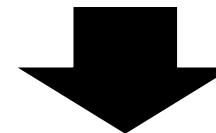
社会は「地理・歴史」「公民」に分かれます。5教科を通して、平均点の変動は少ないですが、今回は「日本史B」のみが、センター試験時代も含めて過去最低の平均点に。しかし、難易度的に考えれば、52.81点なので、理科同様、共通テストの目指す平均点（指標となる平均点はセンター試験が60点、共通テストが50点）に近く、むしろ、次年度以降は他科目の難化に備えることが重要になります。

社会は、全体的に多様な情報が加わったことが変化のキメテ。たとえば「日本史B」では、対話文5つ、メモ2つ、表・年表4つ、資料7つ、写真3つ、地図1つ、といったように問題文が様々な情報で構成されています。

社会は暗記科目

社会は入試直前でも伸びるから後回し

過去問解きまくれば大丈夫



概念重視は同じ、

盛りだくさん  
記述（石川県）

一問一答的知識→因果関係的理  
解→抽象化→やっと概念化

問題から最新の  
の資料もたくさん  
まで

# 共通テスト・高校入試の狙い

ごまかし勉強排除

過去問、傾向と対策、効率良い勉強、知識偏重など

テストの点だけ取れる生徒の排除

注意点

知識中心問題 対 思考力問題

高校入試に関しては要注意

# 偏差値の意味と学年順位・通知簿の相関

		50	55	60	65	70	75	
上位～%		69%	50%	31%	16%	7%	3%	0.5%
学年順位	100人規模	69	50	31	16	7	3	0.5
	150人規模	104	75	47	24	11	5	1
	250人規模	173	125	78	40	18	8	1

中学での目安

高学年 Aテスト+1割、Bテスト=偏差値65～70以上

# 余談:学力テストの見方

(■は偏差値、グラフの横の数字は得点です)

今  
回  
の  
成  
績



低学年:入塾テスト基準 高学年:Bテストへ 中1・中2:目標は高く

# 2022年石川県公立高校入試結果

## ① 教科別平均点

年度	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	5教科合計 の平均点
R 4	54.7点	39.9点	47.2点	53.5点	39.9点	235点
R 3	60.1点	48.0点	48.6点	51.2点	46.1点	254点

## ② 5教科合計の得点分布（500点満点）比率（%）

年度	0 ～ 49	50 ～ 99	100 ～ 149	150 ～ 199	200 ～ 249	250 ～ 299	300 ～ 349	350 ～ 399	400 ～ 449	450 ～ 500
R 4	0.5	6.2	12.5	17.5	18.2	16.4	18.1	9.6	1.0	0.0
R 3	0.3	4.6	9.8	13.5	18.6	18.1	18.8	13.8	2.6	0.1

# 高校入試については要注意

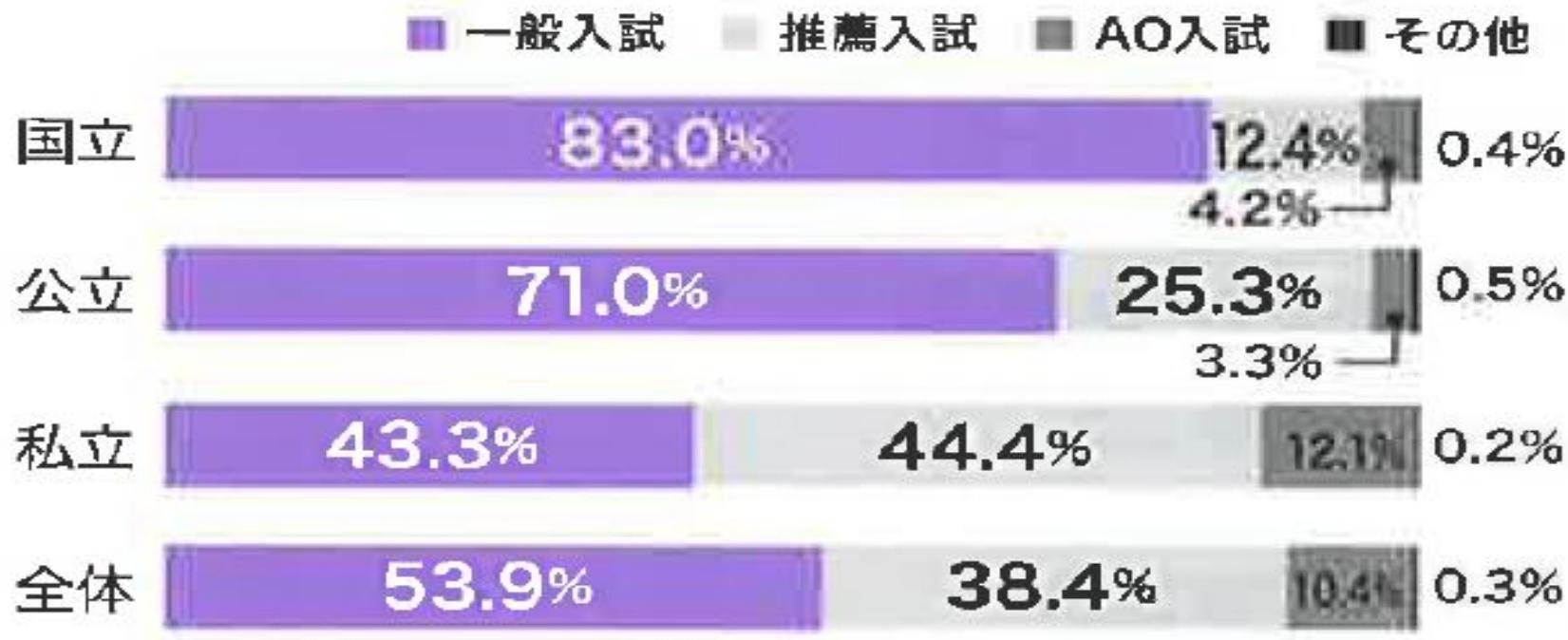
# 大学入試の戦略

※ 現高1から科目改変

- ① 興味関心がある学部学科・大学がある
- ② ①がない
- ③ 海外大

# ①②行きたい大学があるかないか

## 2020年度 国公私立大別入学者「選抜方式」割合



総合選抜なら、  
一般入試なら、受験科目に注意( 年前ルール)

# ③海外大について

各資格・検定試験とCEFRとの対照表

文部科学省 (平成30年3月)

CEFR	ケンブリッジ 英語�定	実用英語技能検定 1級-3級	GTEC Advanced Basic Core CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC L&R/ TOEIC S&W
<b>C2</b>	230 200 (230) (210)	各級CEFR 算出範囲	各試験CEFR 算出範囲	9.0 8.5				
<b>C1</b>	199 180 (190) (180)	3299 2600 (3299) (2630)	1400 1350 (1400)	8.0 7.0	400 375	800	120 95	1990 1845
<b>B2</b>	179 160 (170) (160)	2599 2300 (2599) (2304)	1349 1190 (1280)	6.5 5.5	374 309	795 600	94 72	1840 1560
<b>B1</b>	159 140 (150) (140)	2299 1950 (2299) (1980)	1189 960 (1080) CBT (1980)	5.0 4.0	308 225	595 420	71 42	1555 1150
<b>A2</b>	139 120 (120)	1949 1700 (1949) (1728)	959 690 (840) Basic (1728)		224 135	415 235		1145 625
<b>A1</b>	119 100 (100)	各試験CEFR 算出範囲 (100)	689 270 (270)					620 320

➡は各級合格スコア

※括弧内の数値は、各試験におけるCEFRとの対象関係として測定できる能力の範囲の上限と下限

○ 表中の数値は各資格・検定試験の定める試験結果のスコアを指す。スコアの記載がない欄は、各資格・検定試験において当該欄に対応する能力を有していると認定できないことを意味する。

※ ケンブリッジ英語検定、実用英語技能検定及びGTECは複数の試験から構成されており、それぞれの試験がCEFRとの対照関係として測定できる能力の範囲が定められている。当該範囲を下回った場合にはCEFRの判定は行われず、当該範囲を上回った場合には当該範囲の上限に位置付けられているCEFRの判定が行われる。

※ TOEIC L&R/ TOEIC S&Wについては、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にして合算したスコアで判定する。

※ 障害等のある受検生について、一部技能を免除する場合等があるが、そうした場合のCEFRとの対照関係については、各資格・検定試験実施主体において公表予定。

中学生の  
計画、  
以外も海外大が選択肢に？

# 『ディストピア禍の新・幸福論』のマトリクス

